

## 結果発表4 全国温泉地 満足度ランキング ベスト10

総合満足度（1年間の訪問者50人以上）

順位	温泉地名	都道府県	満足者の割合(%)	集計対象数(人)
1位	万座温泉	群馬	94.5	236
2位	山鹿・平山温泉	熊本	93.5	216
3位	白骨温泉	長野	93.4	152
4位	奥飛騨温泉郷	岐阜	92.7	383
5位	高湯温泉	福島	92.6	95
6位	草津温泉	群馬	92.5	815
	長湯温泉	大分		107
8位	霧島温泉	鹿児島	92.4	419
9位	会津湯野上温泉	福島	92.3	52
10位	乳頭温泉郷・水沢温泉郷・田沢湖高原温泉	秋田	92.0	237
	黒川温泉	熊本		373

「全国温泉地満足度ランキング」では、(最近1年間に行ったことがある温泉地のうち「満足した」温泉地を調査

### 分析 総合部門満足度1位に「万座温泉」が輝く

毎年、順位が大きく変動する「全国温泉地満足度ランキング」。1年間の訪問者50人以上の温泉地を対象にした同ランキング「総合部門」では、万座温泉が満足者の割合94.5%で見事1位に輝いた。2位「山鹿・平山温泉」や3位「白骨温泉」や4位「奥飛騨温泉郷」、5位「高湯温泉」など、素朴ながら豊かな自然環境に恵まれた温泉地が上位を独占したことも注目したいポイント。

今年はその揺り戻しから、関東や「由布院温泉」、「指宿温泉」などの九州勢が各ランキングで存在感を発揮したことが印象的。一方、たとえば、昨年は「別府温泉郷」や「由布院温泉」、「指宿温泉」など、ここ数年首位に変動は見られないが、各ランキングを俯瞰すると、いくつかの変化を見て取れる。

たとえば、昨年は「別府温泉郷」や「由布院温泉」、「指宿温泉」など、ここ数年首位に変動は見られないが、各ランキングを俯瞰すると、いくつかの変化を見て取れる。

## 結果発表3 全国温泉地1年間の 訪問経験ランキング ベスト10

全体(n=12,062)

順位	温泉地名	都道府県	得票数	昨年順位
1位	箱根温泉	神奈川県	1,528	1位
2位	別府温泉郷	大分	940	3位
3位	熱海温泉	静岡県	841	2位
4位	草津温泉	群馬	815	5位
5位	有馬温泉	兵庫	700	4位
6位	鬼怒川温泉	栃木	692	8位
7位	道後温泉	愛媛	690	7位
8位	由布院温泉	大分	646	6位
9位	定山溪温泉	北海道	571	11位
10位	伊香保温泉	群馬	547	17位

「全国温泉地1年間の訪問経験ランキング」では、最近1年間(2014年8月頃～2015年8月頃まで)に「行ったことがある」温泉地を調査

### 分析 関東近郊の温泉地が半数 順位間の差は縮まる

不動の1位となった「箱根温泉」をはじめ、熱海温泉(-1ランク)、草津温泉(+1ランク)、鬼怒川温泉(+2ランク)、伊香保温泉(+7ランク)と、トップ10のうち5つを関東近郊の温泉地が占める結果となった。また、獲得票数をみると、前年は1位と10位の差が1354票だったが、今年は981票と、各順位間の差が縮まっている。

今回で10度目の調査となり、調査対象者数1万2062人と過去最大の規模で行われた「じゃらん人気温泉地ランキング2016」。主要3部門となる「全国人気温泉地ランキング」と「全国あこがれ温泉地ランキング」、「全国温泉地1年間の訪問経験ランキング」では、ここ数年首位に変動は見られないが、各ランキングを俯瞰すると、いくつかの変化を見て取れる。

たとえば、昨年は「別府温泉郷」や「由布院温泉」、「指宿温泉」など、ここ数年首位に変動は見られないが、各ランキングを俯瞰すると、いくつかの変化を見て取れる。

## 結果発表2 全国あこがれ 温泉地ランキング ベスト30

全体(n=12,062)

順位	温泉地名	都道府県	得票数	昨年順位
1位	由布院温泉	大分	2,932	1位
2位	乳頭温泉郷・水沢温泉郷・田沢湖高原温泉	秋田	1,695	3位
3位	草津温泉	群馬	1,584	5位
4位	指宿温泉	鹿児島	1,557	2位
5位	別府温泉郷	大分	1,535	4位
6位	道後温泉	愛媛	1,407	6位
7位	登別温泉	北海道	1,357	8位
8位	黒川温泉	熊本	1,258	7位
9位	下呂温泉	岐阜	1,055	10位
10位	有馬温泉	兵庫	999	9位
11位	箱根温泉	神奈川県	914	11位
12位	熱海温泉	静岡県	873	12位
13位	银山温泉	山形	781	15位
14位	白骨温泉	長野	734	14位
15位	八甲田温泉・酸ヶ湯温泉	青森	733	18位
16位	洞爺湖温泉	北海道	683	13位
17位	鬼怒川温泉	栃木	660	16位
18位	加賀温泉郷	石川	639	17位
19位	蔵王温泉	山形	582	20位
20位	和倉温泉	石川	580	22位
21位	伊香保温泉	群馬	475	21位
22位	黒部峡谷温泉群	富山	465	26位
23位	霧島温泉	鹿児島	461	19位
24位	宇奈月温泉	富山	422	31位
25位	二セコ温泉郷	北海道	390	23位
26位	城崎温泉	兵庫	387	24位
27位	白浜温泉	和歌山	381	32位
28位	十和田湖温泉郷・十和田湖畔温泉	青森	375	25位
29位	玉造温泉	島根	358	30位
30位	奥飛騨温泉郷	岐阜	343	27位

「全国あこがれ温泉地ランキング」では、まだ行ったことはないが、「一度は行ってみたい」温泉地を調査 ※複数回答5つまで

### 分析 1位獲得は10年連続「由布院温泉」 “あこがれ”でも東北勢が存在感

調査開始以来10年連続の1位となった「由布院温泉」。4位「指宿温泉」(-2ランク)や5位「別府温泉郷」(-1ランク)が少しずつ順位を下げ、一方、「乳頭温泉郷・水沢温泉郷・田沢湖高原温泉」が2位(+1ランク)に。13位「银山温泉」(+2ランク)、15位「八甲田温泉・酸ヶ湯温泉」(+3ランク)、39位「花巻温泉郷」(+6ランク)など、同部門でも東北勢が存在感を見せた。



由布院温泉

## 結果発表1 全国人気温泉地ランキング ベスト50

全体(n=12,062)

順位	温泉地名	都道府県	得票数	昨年順位
1位	箱根温泉	神奈川県	2,024	1位
2位	草津温泉	群馬	1,824	3位
3位	由布院温泉	大分	1,793	2位
4位	別府温泉郷	大分	1,634	4位
5位	登別温泉	北海道	1,503	5位
6位	道後温泉	愛媛	1,220	6位
7位	指宿温泉	鹿児島	1,109	8位
8位	黒川温泉	熊本	1,094	7位
9位	有馬温泉	兵庫	979	9位
10位	乳頭温泉郷・水沢温泉郷・田沢湖高原温泉	秋田	825	13位
11位	白湯温泉	岐阜	823	12位
12位	城崎温泉	兵庫	820	10位
13位	熱海温泉	静岡県	772	11位
14位	奥飛騨温泉郷	岐阜	757	14位
15位	鬼怒川温泉	栃木	695	16位
16位	和倉温泉	石川	689	19位
17位	霧島温泉	鹿児島	678	15位
18位	蔵王温泉	山形	676	18位
19位	洞爺湖温泉	北海道	652	17位
20位	白浜温泉	和歌山	569	20位
21位	定山溪温泉	北海道	562	22位
22位	加賀温泉郷	石川	557	21位
23位	白骨温泉	長野	548	23位
24位	湯の川温泉	北海道	522	24位
25位	玉造温泉	島根	508	32位
26位	阿寒湖温泉	北海道	501	26位
27位	伊香保温泉	群馬	498	29位
28位	秋保温泉	宮城	480	38位
29位	層雲峡温泉	北海道	473	25位
30位	雲仙温泉	長崎	462	27位
31位	万座温泉	群馬	433	34位
32位	八甲田温泉・酸ヶ湯温泉	青森	425	30位
33位	飛騨高山温泉 嬉野温泉	岐阜 佐賀	413	31位
34位	野沢温泉	長野	383	37位
35位	二セコ温泉郷	北海道	380	35位
36位	十和田湖温泉郷・十和田湖畔温泉	青森	360	43位
37位	修善寺温泉	静岡	359	28位
38位	鳴子温泉郷	宮城	355	41位
39位	湯河原温泉	神奈川県	326	36位
40位	那須温泉 四万温泉	栃木 群馬	320	39位
41位	十勝川温泉	北海道	305	44位
42位	花巻温泉郷	岩手	302	47位
43位	宇奈月温泉	富山	283	50位
44位	银山温泉	山形	278	53位
45位	日光湯元温泉	栃木	277	49位
46位	富士河口湖温泉郷	山梨	266	40位
47位	みなかみ18湯(旧水上温泉郷・猿ヶ京温泉・法師温泉・宝川温泉)	群馬	261	48位
48位	三朝温泉	鳥取	260	54位

「全国人気温泉地ランキング」では、これまでに行ったことがある温泉地のうち「もう一度行ってみたい」温泉地を調査 ※複数回答5つまで

### 分析 トップ5の顔ぶれは5年間変わらず 東北・関東・北陸勢が票を伸ばす

上位5温泉地は5年連続で同じ顔ぶれ。一方で、東北の温泉地として初のトップ10入りとなった10位「乳頭温泉郷・水沢温泉郷・田沢湖高原温泉」(+3ランク)を筆頭とする東北の温泉地や、15位鬼怒川温泉(+1ランク)や27位の伊香保温泉(+2ランク)などの関東勢、16位「和倉温泉」(+3ランク)や45位「宇奈月温泉」(+5ランク)などの北陸勢のジャンプアップも目立つ結果となった。

# 発表!

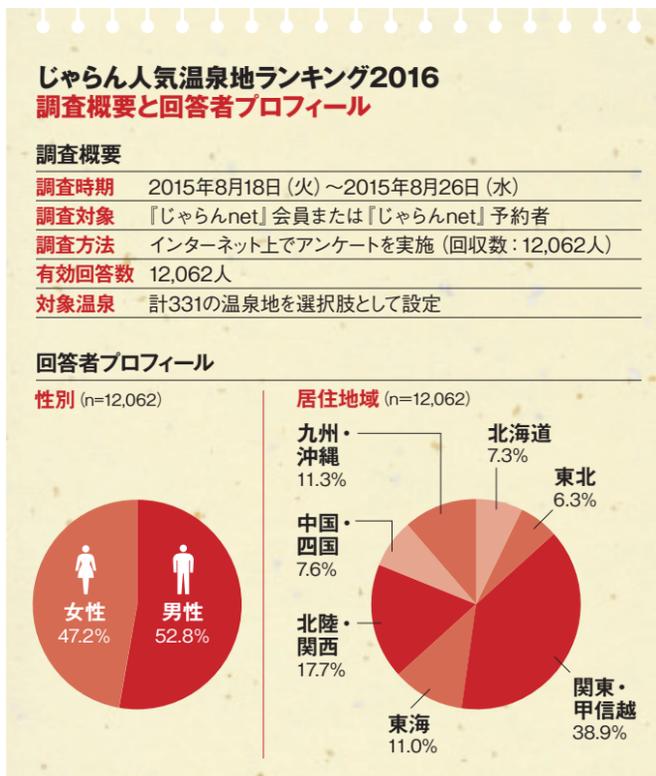
## 人気温泉地ランキング 2016

## 10連覇の箱根温泉、躍進する東北・北陸勢...

### 人気温泉地ランキングより

# 選ばれる温泉地 2016

今年で10回目となる「じゃらん人気温泉地ランキング」。全国1万2062人を対象にした調査が物語るの日本各地に点在する331カ所の温泉地のリアルな状況だ。最新のデータの分析から「選ばれる温泉地」を読み解く。



## 各種ランキングで東北・北陸勢の躍進が顕著

### 東北エリア

温泉地名	都道府県	全国人気温泉地ランキング	全国あこがれ温泉地ランキング
秋保温泉	宮城	38 ↗ 28 +10ランク	35 ↗ 32 +3ランク
十和田湖温泉郷・十和田湖畔温泉	青森	43 ↗ 37 +6ランク	25 ↘ 28 -3ランク
銀山温泉	山形	53 ↗ 46 +7ランク	15 ↗ 13 +2ランク

### 北陸エリア

温泉地名	都道府県	全国人気温泉地ランキング	全国あこがれ温泉地ランキング
和倉温泉	石川	19 ↗ 16 +3ランク	22 ↗ 20 +2ランク
宇奈月温泉	富山	50 ↗ 45 +5ランク	31 ↗ 24 +7ランク

分析 新幹線開業で北陸勢が加速  
東北勢も軒並みランクアップ

上記の表の通り、東北や北陸の温泉地の活躍が目立った今回のランキング。北陸勢のランクアップの背景にあるのは、もちろん北陸新幹線開業によるアクセス向上やメディア露出の増加だ。また「全国人気温泉地ランキング」における「秋保温泉」や「十和田湖温泉郷・十和田湖畔温泉」、「銀山温泉」の躍進も顕著。震災後数年で順位が下降した温泉地も多かったが、あらためて東北の温泉地が元気になっているようだ。



秋保温泉©仙台観光国際協会



和倉温泉©石川県観光連盟

## 全国温泉地満足度ランキング 秘湯部門トップ10に 福島温泉が3つランクイン!

(1年間の訪問者50人以上100人未満)

温泉地名	都道府県	満足者の割合(%)	集計対象数(人)
第1位 高湯温泉	福島	92.6	95
2 会津湯野上温泉	福島	92.3	52
3 龍神温泉	和歌山	90.8	65
4 小野川温泉	山形	88.2	51
5 表磐梯温泉	福島	88.0	50
6 十勝岳温泉	北海道	85.3	68
7 秋田八幡平温泉郷	秋田	85.1	74
8 穂高温泉郷	長野	84.7	98
9 瀬波温泉	新潟	84.5	84
九重“夢”温泉郷	大分		97

分析 1年間の訪問者数50人~99人の  
「秘湯部門」トップ10の半数が東北勢

「全国温泉地満足度ランキング」の中でも1年間の訪問者数50人以上100人未満の温泉地に限定した「秘湯部門」では、トップ10のうち5つが東北の温泉地となった。なかでも、3つの温泉地が入賞した福島勢の存在感は見逃せない。1位「高湯温泉」は前年5位。2位「会津湯野上温泉」と5位の「表磐梯温泉」はトップ10圏外からの躍進と、小さくとも地力のある温泉地が多くの旅行者の「満足度」を獲得したようだ。

「全国人気温泉地ランキング」のトップ5に同じ顔ぶれが5年連続で並ぶなど、あらためて「箱根温泉」や「草津温泉」、「由布院温泉」といった、超有名温泉地への盤石ぶりをあらためて印象づけられた今回のランキング。一方で、決して交通の便の良いわけではない「乳頭温泉郷・水沢温泉郷・田沢湖高原」の躍進を筆頭に、東北や北陸の温泉が数多くランクアップするなど、各地に点在する「メジ

不動の人気を誇るトップ5と躍進する東北・北陸勢 今後の展開に要注目!

「秘湯部門」で躍進している。風評も観光業界にとって今後議論が必要になる点だろう。

「秘湯部門」で躍進している。風評も観光業界にとって今後議論が必要になる点だろう。

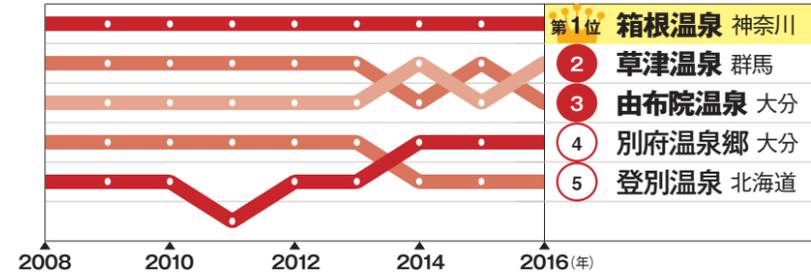
## 全国人気温泉地ランキングは【箱根温泉】が不動の1位も 2位以下との獲得票差は縮小傾向に



10年連続1位の箱根温泉



「もう一度行ってみたい」上位5温泉地の順位変動 (2008~2016)



分析 トップランナー「箱根温泉」を  
上位温泉地が猛追する

「箱根温泉」が10年連続で1位となり、2位「草津温泉」と3位「由布院温泉」が毎年入れ替わる激しい展開が続く。獲得票数を見ると、大涌谷周辺の火山活動の影響もあり「箱根温泉」が611票減。一方で、4位「別府温泉」(+72票)、5位「登別温泉」(+123票)と、トップ5間の獲得票差は縮小傾向にある。来年以降の動向にも注目したい。

上位5温泉地の獲得票数

	2015年	2016年
箱根温泉	2635	2024
草津温泉	1800	1824
由布院温泉	2085	1793
別府温泉郷	1562	1634
登別温泉	1380	1503

### 調査結果から読み解く

# 選ばれる温泉地の現在地

各ランキングの調査結果をさらに深く読み解くことで温泉地の「今」が見えてくる? 本調査で注目すべきポイントを詳細分析。

## 「乳頭温泉郷・水沢温泉郷・田沢湖高原温泉」が各ランキングで躍進。その背景にあるものとは?

居住地別 全国人気温泉地ランキング (関東・甲信越居住者)

2015年 → 2016年

関東・甲信越居住者 (n=5,091)

温泉地名	都道府県	得票数
第1位 箱根温泉	神奈川県	1,747
2 草津温泉	群馬県	1,275
3 由布院温泉	大分県	641
4 熱海温泉	静岡県	554
5 登別温泉	北海道	478

関東・甲信越居住者 (n=4,687)

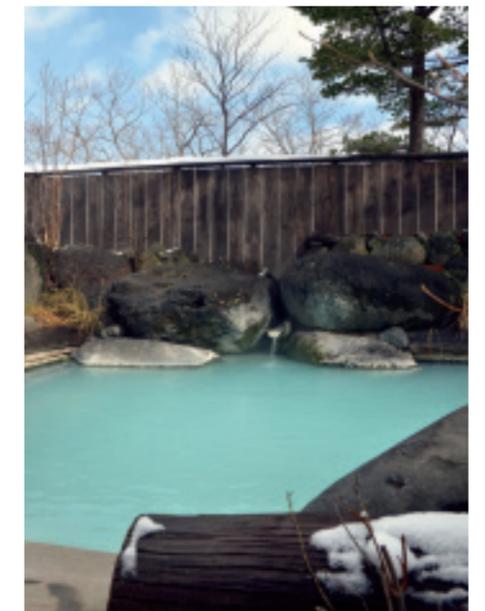
温泉地名	都道府県	得票数
第1位 箱根温泉	神奈川県	1,291
2 草津温泉	群馬県	1,173
3 由布院温泉	大分県	505
4 熱海温泉	静岡県	441
5 乳頭温泉郷・水沢温泉郷・田沢湖高原温泉	秋田県	434

分析 関東・甲信越地域で評価急上昇  
泉質の良さや周囲の自然が魅力

「全国人気温泉地ランキング」で東北勢初のトップ10に輝き、「全国あこがれ温泉地ランキング」でも2位になるなど、躍進する「乳頭温泉郷・水沢温泉郷・田沢湖高原温泉」。「居住地別 全国人気温泉地ランキング」の関東・甲信越居住者部門では5位に入り、東北以外からの集客に成功したことを証明。泉質の良さや周囲の自然環境に「あこがれる」人が多いようだ。

乳頭温泉郷・水沢温泉郷・田沢湖高原温泉に憧れる理由トップ3

理由	割合(%)
第1位 温泉の効能や泉質に興味があるから	64.7
2 自然に囲まれているから	46.1
3 有名なので	41.7



満足度秘湯部門1位の高湯温泉

# レポート

人気温泉地ランキング  
2016

## 選ばれる温泉地



**旅館という仕事の原点に立ち返ることの大切さ**

JR福島駅からバスに揺られること30分。山あいを進むバスが標高を上げ、周囲が雪景色に変わる

# 震災から5年 福島が描く未来

今回の調査で大きな存在感を見せた福島県内の温泉地。東日本大震災から5年の節目を迎える今、観光の現場ではどのような手応えと展望を感じているのか。福島で観光と向き合うふたりのキーパーソンに聞いた。

と、やがて旅館がぼつぼつと見えしてきた。「高湯温泉」は、想像よりも素材で小さな温泉地だった。今回「全国温泉地満足度ランキング」の秘湯部門で、92・6%という高い満足度を得て全国トップ

となった「高湯温泉」は、福島県を代表する名湯のひとつ。古くから豊富な湯量と泉質の良さには定評がある。しかし、下表の通り2011年の東日本大震災以降、入込客数は減少。苦境に立たされて

## 震災をきっかけに 高湯の強み〴〵泉質の良さを 改めて見直しました



高湯温泉観光協会  
会長  
遠藤淳一さん

「原発事故の影響はもちろんですが、2014年に吾妻山の噴火レベルが2に引き上げられたことも、高湯温泉にとつての逆風となりました。ただ、厳しい状況だからこそ、高湯温泉の〴〵良さを改めて向き合える契機になったと思っています。その結果がお客様の満足度となって表れたのであれば、嬉しいことです」とは高湯温泉観光協会の遠藤淳一会長。

高湯温泉地区 入込客数 (単位:人)



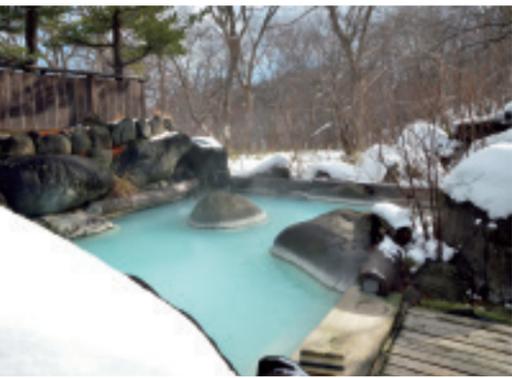
福島県 観光交流局  
観光交流課 課長  
吾妻嘉博さん

## 観光は風評被害を払拭する きっかけになれる産業なのだと思います

量を誇る9つの源泉は、すべて地形の高低差を利用して引湯される「自然流下」を採用。乳白色の美しい湯は、加水も加温もなしの源泉100%かけ流しだ。

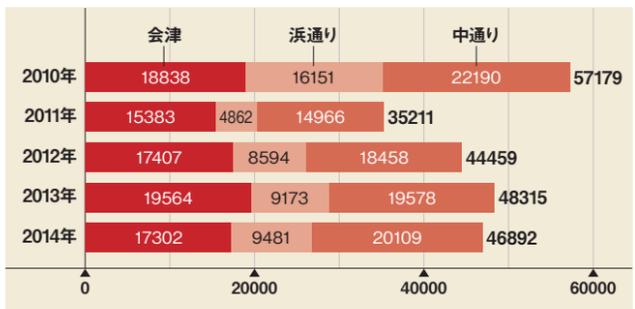
「もちろん震災後に、高湯の泉質の良さを紹介する冊子を制作したり、震災後の補助金や税制面の優遇を活用していくつかの宿で浴場をリニューアルしたり...、いくつかの施策は行ってきました。ただ、震災があったからといって、

高湯温泉のスタイルを変えようという話は一度も出たことがありません。最も大切なのは、泉質の良さをひとりひとりのお客様にしっかりと体験してもらおうということ。そんな原点ともいえる思いを、温泉地として共有できたことが大きかったと思います。高湯温泉は小さな旅館の集まりですから、強いのは〴〵マスクミ、よりも〴〵口コミ。



風評被害対策は大切ですが、やはり限度があります。原発事故や火山の影響を心配する方に無理に來ていただくよりも、一度来てくださった方にもう一度来てもらうことが大切。それは旅館の原点ともいえることです。現在、SNSの情報などをきっかけに高湯温泉を訪れてくれる若者は増えています。2020年までに震災前の水準まで入込客数を伸ばすことが当面の目標です」(同)

福島県の観光客人込数推移 (単位:千人)



## 震災後に生まれた 県全体が団結する雰囲気

「『高湯温泉』、『会津湯野上温泉』、『表磐梯温泉』は、いずれもアクセスの便が良く、豊かな自然や良質の温泉に恵まれた場所。東北の玄関口である福島らしい魅力を持った温泉地が入賞したことは嬉しいニュース。今後は、各エリアの特性にあったマーケティングを行い、さらに誘客に取り組みたいですね」とは、福島県観光交流課の吾妻嘉博課長。

今回の躍進の理由を尋ねると、

「行政と民間が一致団結して前向きに進んだこと」との答えが返ってきた。たとえば、2015年4月〜6月開催の「ふくしまステイネーションキャンペーン」は代表的な取り組みのひとつ。「ある市では地元住民が中心となり、神社の通常公開されていない部分を特別公開する受入イベントを開催。ある地域では複数の市町村が連携し協議会を立ち上げ、地域イベントの活性化やPRなどを行いました。このような新たな取り組みや団体が、地域を支えています。」

震災後、こうした動きが福島県内各地で生まれているのだ。

「震災から5年を経た今感じているのは、風評被害に特効薬はないということ。行政としては、正確な情報をねばり強く発信するしかない。ただ、観光には『福島大丈夫だし良かったよ』と口コミによって正確な情報が伝わる効果もある。だからこそ、みんながそれぞれの立場で一所懸命にバットを振り続けることが、重要なのだと思います。」(同)

福島県の温泉地の躍進を支えるのは、日々課題と向き合い、一歩一歩前進する人々の努力なのだ。